

## 特色ある取組

本を通じた交流により、コロナ禍における学生の孤独やコミュニケーション不足を改善することを目的とし、本学の学生を対象にオンライン上で同じ時間に集まって読書を行う「オンライン読書室」を令和2年12月から月1回のペースで実施しています。

オンライン読書室では最初の1時間は各自が好きな本を読書し、その後30分間で本の感想などフリートークを行います。気軽に参加できるよう、入退室自由、他の参加者の話を聞くだけでもOKとしています。

また、学生が運営側にいる方がより親しみやすいものになると考え、学生サークル「阿波ビブリオバトルサポーター」の学生1名にファシリテーターとして協力してもらっています。

ファシリテーターは企画段階から参加し、当日は司会や参加者の発言を引き出すなどの重要な役割を担っています。

## 上記取組による成果・評価 など

令和2年度は4回開催し、計30名が参加しました。参加者からは「皆さんのおかげで、面白い本と出会いました」「フリートークで色々お話が聞けるのが楽しかったです」などの感想が寄せられ、本を通じた交流を楽しんでいることが分かります。今後も定期的に開催し、ふと誰かと本を読んでみたくなった時に立ち寄ってもらえるような場所でありたいと考えています。



## 参考URL

徳島大学附属図書館ホームページ  
「オンライン読書室を開催しました」

<https://www.lib.tokushima-u.ac.jp/news/news20/2021032501.html>

## 取材対応者



依岡隆児  
附属図書館副館長

コロナ禍のなか、学生アンケートなどで交流の場を持ちたいという意見がいくつも出されており、また学長からも図書館だからできる交流の場を工夫してもらいたいとの依頼を受けておりました。とはいえ、コロナ禍の状況では直接会って交流イベントを行うのは難しい。そこで、オンラインによる交流会として「オンライン読書室」を開催することにしました。

オンライン読書室が、直接は会えないけれど思い思いに好きな本を読んで過ごせる場所として定着し、学生たちがコロナ禍で孤立することがないようにしたいと考えています。



関口俊介  
ファシリテーター  
(総合科学部4年)

図書館とのご縁があり、オンライン読書室でのファシリテーターを務めさせていただいております。

オンライン読書室はコロナ禍の中で本を媒介にして本学学生の寂しさを癒す企画ですが、ファシリテーターの私も参加者の皆様の本を読む姿を見たり、読んだ本の内容についてお喋りしたりして慰められています。

皆様が読む本もその人自身も魅力的で、もっと知りたいと思っています。やはり本は人々を繋ぐ引力を持っているのだと改めて実感しました。また新入生が入学し、一層この企画が盛り上がることを願っています。